

they said,

消防団員の数は決して多くないのに 操法大会の応援団はどこよりも大勢で、 そして熱いんです



消防団の石川晃央さん(右)と金井町内会の大石正幸会長。親子のような二人だ

自然災害が多発する昨今、町内会・自治会の存在意義、そして消防団の活動が注目されている。消防団とは、地域で火災があった際に真っ先に駆け付けて消火活動を行ったり、火災予防に取り組みだしている組織のことだ。その起源は遙か江戸時代に遡るが、現在は遥か江戸時代に遡るが、現在、町田市の消防団は地域ごとに5分団に分かれ、約600名の団員が所属している。彼らの多くは社会人や学生で、「ウィーナス隊」と呼ばれる女性消防団員もいる。親子や夫婦で参加している団員もいる反面、ライフスタイルの変化などから団員数は年々減少傾向にあるが、そんな消防団と町内会・自治会は様々な面で協力し合っている。そのエリアのひとつが、金井である。

◆ 金井町内会は区域が広いこともあり、加入世帯数が1900世帯という大きな町内会だ。サッカーコートも取れる広々とした金井スポーツ広場では、季節ごとのお祭りやどんど焼きなどが行われ、多くの人で賑わいをみせている。そんな金井町内会の区域でもある金井地区を担当する消防団が、

第3分団第4部だ。現在、部長を務めるのは13年前に金井に引越してきた石川晃央さん。ある日、通勤電車の中でこんな想いが頭をよぎったという。
「隣の人が突然倒れたら、自分は一体何が出来るんだろう」
その想いが石川さんを突き動かした。
「いざという時に何もできないのではなく、やれる人間でありたい。この地域のために少しでもやれることをやりたい」そんな願いが叶う場所が、消防団だったのだ。

消防団は災害に備え、日々様々な訓練や予防に関する広報を行っている。また、地域のイベントや防災訓練などにも参加し、防災知識や応急手当の指導を通して地域との交流を深めることも大切な活動の一つだ。金井町内会の防災訓練では、ポンプ車を持ち込み、デモンストラーションを行ったり、AEDの使い方を指導したりする。子どもの参加が多いイベントでは自作した紙芝居やクイズで、場を盛り上げている。
「防災訓練の意義や、地震や火事の時にどうすればいいのかを、大人でも子どもでも楽しく覚えられ

る工夫をしています。防災訓練って思ったよりも興味深いし、消防団の人もカッコイイ。そう思ってくれるお子さんが少しでも増えてくれれば、保護者の方の意識も変わり、家族で防災への意識が高まるのでは、と思うんです」
そんな消防団の活動が地域に溶け込み、住民ともフレンドリーな関係が築けている。活動時に声をかけてくれたり、毎年6月に行われるポンプ操法大会では大勢が応援に駆けつけてくれるのだ。

「町内会の活動をサポートしてくれているので、消防団の告知や団員募集、イベントのPRは、回覧板や掲示板を活用してもらっています。消防団も町内会も、暮らす人たちの安全安心、そして暮らしやすい豊かなまちになることを望んでいます。目的が一緒だから、いい関係を築いていけるんです」
金井町内会の大石正幸会長も、消防団をかけがえのない存在だと信頼し、活動を応援している。
地域の暮らしやすさと防災意識の向上。町内会・自治会と消防団がタッグを組んで町を守り、盛り上げる。そんな関係が金井には出来上がっていた。



支え合い、助け合って 共にまちを守り抜く

THE
まち人
MACHIBITO file
031
地域に
生きる

金井町内会・町田市消防団第3分団第4部

加入に関するお問い合わせ 町田市町内会・自治会連合会 042-722-4262



左) 毎年旧正月の1月14日に行われる「どんど焼き」。1000本の竹串団子を用意するのは、町内会の女性メンバーたち 中) 金井町内会のどんど焼きは全部で3塔。着火するのは、年男か年女と決まっているという 右) 消防団が大活躍する防災訓練。金井スポーツ広場や金井中学校のグラウンドで開催される